

アジア経営学会 第29回 全国大会 自由論題・英語セッション プログラム

9月10日（土）	自由論題／特別記念講演／会員総会（※懇親会は実施いたしません）			(自由論題報告・英語セッション報告 各25分／コメント5分／討議10分)
報告種類	自由論題			英語セッション
	A会場 (対面&オンライン併用)	B会場	C会場	D会場 (英語セッションのみ対面&オンライン併用)
教室	21-422	21-423	21-424	21-433
10:00 司会	安田賢憲（創価大学）	芳澤輝泰（近畿大学）	横井和彦（同志社大学）	村田大学（大原学院大学）
01 テーマ	カンボジアにおけるデジタルマネーの導入と意義	技術イノベーション期における後発自動車部品企業の能力構築と成長戦略 -中国CATL社の供給体制を中心に-	戦略的人的資源管理（SHRM）研究パラダイム -理論再構築と実証調査への枠組み-	東アジア鉄鋼産業のサプライ・チェーン研究：自動車用鋼板を中心に
	報告者 稲所哲郎（国土館大学）【オンライン】	李博文（京都産業大学大学院）	崔星宇（流通科学大学大学院）	辺成祐（近畿大学）
	討論者 廣畠伸雄（山口大学）	佐伯靖雄（関西大学）	安熙卓（九州産業大学）	川端望（東北大学）
10:45 司会	安田賢憲（創価大学）	芳澤輝泰（近畿大学）	横井和彦（同志社大学）	三嶋恒平（慶應義塾大学）
02 テーマ	戦略統合経営コンテンツとプロセスに関する実証的研究 - 分析枠組みの組織への運用可能性と適合性の解明 -	日本企業のアセアン各国を拠点としたイノベーション・ネットワーク	日系ドラッグストアのアジアにおける事業展開	The Mirroring Hypothesis on Innovation Performance: Focusing on the IT Industry
	報告者 呉晶津（流通科学大学大学院）【オンライン】	近藤正幸（開志専門職大学）	岩田知子（北海道大学大学院）	郭媛瑜（東洋大学大学院）【オンライン】
	討論者 肥塚浩（立命館大学）	楊秋麗（京都橘大学）	西川純平（同志社大学）	中川涼司（立命館大学）
11:30 司会	笠原民子（静岡県立大学）	藤澤武史（関西学院大学）	塙地洋（京都大学）	三嶋恒平（慶應義塾大学）
03 テーマ	経済安保のアジアのサプライチェーンへの影響 ～経営安保レベルに掘り下げる考察する～	国境を越えたM&Aによるイノベーション	中小企業によるアントレプレナーシップとしての国際化 -日本の中小製造企業によるベトナム進出のケースから-	Sustainable Global Value Chains in Trend of Research and it's Implication after the COVID-19 Using Text Mining Analysis
	報告者 酒向浩二（城西国際大学）【オンライン】	高瑞紅（大阪経済大学）	閔智宏（同志社大学）	SONG MIN CHAE（NH農協中央会）【オンライン】 LEE SO YEON（NH農協金融持株金融研究所）
	討論者 宋娘沃（中国短期大学）	夏目啓二（龍谷大学）	上田義朗（流通科学大学）	井口知栄（慶應義塾大学）
12:10 昼食	昼食会場（21-430/431/432） 評議員会（20号館4階4AB演習室）【対面&オンライン併用】			
13:55				
13:55 司会	江崎康弘（八千代エンジニアリング）【オンライン】	辺成祐（近畿大学）	麻生潤（同志社大学）	小島愛（立命館大学）
04 テーマ	自動車産業の脱炭素化移行期における廃車載電池の再資源化	インドネシア産業のデジタル化：ゴジェックを中心に	ニューノーマル時代の多文化組織 -コロナ禍における外国人雇用の意識調査を通して-	Growth and State Engagement – a Study of Early Development of Taiwan's Bicycle Industry
	報告者 李在鎬（広島市立大学）【オンライン】	吉野文雄（拓殖大学）	郭潔蓉（東京未来大学）	張喬森（日本大学）【オンライン】
	討論者 堀谷幸介（豊田汽車技術中心（中国））【オンライン】	金綱基志（南山大学）	辻周吾（流通科学大学）	東正志（名城大学）
14:40 司会	江崎康弘（八千代エンジニアリング）【オンライン】	辺成祐（近畿大学）	麻生潤（同志社大学）	小島愛（立命館大学）
05 テーマ	中国建設機械産業の成長過程と企業戦略	北朝鮮における企業倫理意識の萌芽に関する探索的研究	日本・製造業のアジア伸長と本社生産性	Foreign Startups in Japan: Focusing on the Activities of Supporting Organizations
	報告者 韓金江（岐阜協立大学）【オンライン】	中川圭輔（下関市立大学）	關智一（立教大学）	IDRISSOVA Ainash（明治大学大学院）【オンライン】
	討論者 陳晋（立命館大学）【オンライン】	鈴木由紀子（日本大学）	加藤康（京都経済短期大学）	藤澤武史（関西学院大学）
15:30 特別記念講演	アース製薬株式会社 海外統括事業部部長／取締役 常務執行役員 川村 芳範様 「アジア収益基盤の拡大」 (ご講演40分／質疑応答15分) 【会場：21-422】【対面&オンライン併用】			
16:25				
16:40 会員総会	会員総会 会場 21-422 【対面&オンライン併用】			
17:40				

アジア経営学会 第29回 全国大会

統一論題プログラム

9月11日(日)		会場：近畿大学経営学部（21号館）4階 21-422 【対面&オンライン併用】
統一論題		アジア経済の変容とサプライチェーンの再編 司会：關 智一（立教大学）
9:30～9:35	趣旨説明	上田 義朗（流通科学大学）
9:35～10:10	第一報告	李 泽建（大阪産業大学）
	タイトル	世界自動車産業の電動化競争 －中国シフトから読み解く東アジア経済の変容と挑戦－
	討論者	朴 泰勲（関西大学）
10:15～10:50	第2報告	横井 克典（九州産業大学）
	タイトル	二輪車企業における国際分業の再編成 －サプライチェーンの視点から－
	討論者	畠山 俊宏（摂南大学）
10:55～11:30	第3報告	森原 康仁（専修大学）
	タイトル	米中デジタル摩擦 －データ規制をめぐる角逐を中心に－
	討論者	菊池 航（立教大学）
11:30～11:40	主催校挨拶	近畿大学 経営学部長 桂 真一
11:40～12:40	昼食休憩（昼食会場 21-430/431/432） 理事会（20号館4階4AB演習室）【対面&オンライン併用】	
12:40～13:35	ゲストスピーカー	今村 卓 丸紅経済研究所 所長／丸紅株式会社 執行役員
	タイトル	脱グローバル化とアジアのサプライチェーンの変化
	司会	上田 義朗（流通科学大学）
13:40～15:30	パネルディスカッション	報告者：李澤建 横井克典 森原康仁 討論者：朴泰勲 畠山俊宏 菊池航
	モデレーター	夏目 啓二（龍谷大学名誉教授）
15:30～15:40	閉会挨拶	柳町 功（アジア経営学会会長・慶應義塾大学）

アジア経営学会第 29 回全国大会 統一論題 趣意書

アジア経営学会第 29 回全国大会プログラム委員会（敬称略）
（委員長） 上田義朗（流通科学大学）
（副委員長） 關 智一（立教大学）
（委員） 佐伯靖雄（関西大学）
（委員） 坂本義和（日本大学）
（委員） 中原裕美子（九州産業大学）
（委員） 四宮由紀子（近畿大学）

I 統一論題のテーマ

アジア経済の変容とサプライチェーンの再編

II 趣旨

新型コロナ感染の蔓延は 2019 年 12 月に中国から始まり、世界経済に大きな負の影響を与えた。日本を含むアジアの製造業について言えば、コロナ禍による労働力の欠如に起因した原材料や部品の供給停止によってサプライチェーンが切断され、操業中止を余儀なくされる企業が生まれた。特に半導体の供給不足は日本で一般に問題視された。そこで日本政府は「経済安全保障政策」を策定し、サプライチェーンの強靭化が提唱されるに至った。

このような「サプライチェーンの再編」はコロナ禍が端緒になったが、後述するように、より大きな「アジア経済の変容」と呼びうる政治経済的な構造変化が、その背景に存在している。また逆に、サプライチェーンの再編がアジアの経済成長の動向を左右することも指摘しなければならない。そこで全国大会プログラム委員会は、第 29 回アジア経営学会の統一論題を「アジア経済の変容とサプライチェーンの再編」とし、その実態また経営事例の理論的・実証的な考察と議論を内容とすることに決定した。そのことを通して、アジアの経済・企業経営の課題もしくは展望を提起することが統一論題の目的である。

なお、アジア経済の変容をサプライチェーンとの関係に限定すれば、次の 3 点が論点となりうるであろう。

第 1 に、米国トランプ政権が 2018 年 7 月に中国製品に追加関税を課し、中国も報復関税で対抗して米中貿易戦争が開始された。その後の 2021 年 1 月に成立したバイ

デン政権は民主主義対専制主義という対立軸で米国と中国を区分し、米中の緊張関係が今まで続いている。これに対応して米中両国そして日本や韓国の企業は ASEAN 諸国との経済関係の強化に動き出している。なお日中関係を見れば、中国の習近平主席が 2013 年に提唱した「一带一路構想」に対して、日本は 2016 年 8 月から安倍晋三元首相が「自由で開かれたインド太平洋戦略」を主張している。このような対立図式は、2022 年 2 月 24 日のロシアによるウクライナ侵攻に伴う対ロシア経済制裁の発動によって複雑化している。また日韓の経済関係の改善動向にも留意しなければならない。

第 2 に、ASEAN 諸国の自由貿易圏構想として 2018 年の「環太平洋連携協定(TPP)」に加えて、2022 年 1 月 1 日から発効した「地域的包括的経済連携 (RCEP)」が注目される。RCEP は日本を始め中国・韓国が加盟国となっており、アジア経済の成長にとって大きな影響を及ぼす制度的な枠組みである。自由貿易体制下におけるアジア諸国間のサプライチェーン再編が期待されるが、第 1 に指摘した国家間の対立関係が、その制約またはリスクになる懸念もある。

第 3 に、国連の SDGs (持続可能な開発目標) が事業活動のテーマとなり、さらに ESG (環境・社会・統治) が株式投資基準として重視されるようになった。これらは日本企業のみならず取引先であるアジア諸国の企業に対しても、脱炭素化や DX また AI の技術開発を促し、それが新たなサプライチェーンを構築する契機になりうる。さらに ESG 投資基準に適応しようとする企業の人権尊重や企業統治の厳格化は、その取引先の国（地域）や個別企業の選定・変更にも影響を及ぼす可能性も生まれる。

以上、アジア経済の変容とサプライチェーンの再編は、どのような現状であり、それらが今後どのように相互に作用して展開するのであろうか。そしてその課題や具体的なビジネスの好機やリスクは何であろうか。このような複雑ではあるが魅力的な問題の検討によって、日本を含むアジア諸国の企業経営に対する認識と知見の深化・拡大が統一論題に期待される。